

# 「小川内」便り 第32号 平成26年11月

特定非営利活動法人 小川内プロジェクト（理事長 渡辺眞作）



連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小川内4579-3

安佐小川内集会所内

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

秋は収穫の喜びと自然の恵みに感謝する時、農村が地盤の小川内にはお米や多種の野菜、それに柿やゆず、クリ、キノコなど多くの自然の恵みがあります。もののない時代、先人は大家族のいのちと健康を守り又暮らしを豊かにするため、多種多様の農産物を植え育ててきました。それは今に食文化として残っています。時代が変わり、お金を出せば欲しいものが手に入る便利になった今日、担い手の高齢化が主な要因ではあるが耕作放棄地が増え、柿やゆずは殆ど未利用、放置状態です。

五穀豊穰を祈り、秋にはそれに感謝する養山八幡神社の秋季大祭、吹き囃子行事は200年後の今もその伝統は引き継がれ、広島市の重要無形文化財に指定されています。又重労働を忘れ村に楽しみを、と昭和3年若者が始めた田舎芝居「昭和劇団」も今に引き継がれております。農村の原風景が残る小川内にはこのように古い歴史と文化も引き継がれています。

## 目次

広島市大規模土砂災害見舞金	P 2
農業体験	P 2
① 柿もぎ体験	P 2
② ハウス「食と農と環境体験教室」、白島商店会	P 3
小川内情報	P 3
① 小川内小学校最後の運動会	P 3～4
② 小川内小学校最後の学芸会	P 4
③ 昭和劇団	P 5
④ 養山八幡神社秋季大祭吹き囃子行事	P 6
⑤ 慶賀	P 7
⑥ R C C 中国放送テレビ取材	P 7
⑦ 小川内小学校跡地、施設活用	P 8
今後の行事等の予定	P 8
編集後記	P 8

## 広島 市大規模土砂災害見舞金を送りました

8月20日未明に安佐南北区で発生した大規模土砂災害では一瞬にして74名が亡くなられる大災害となりました。改めてご冥福と被災された方にお見舞い申し上げます。

小河内は自治会を通じて、各世帯に見舞金を呼びかけ、ご協力いただいた義援金19万円を小河内コミュニティ推進協議会から広島市へ寄付しました。

現在の科学をもってしても予知できない、防げない、自然災害です。

小河内自主防災会は普段から心構えや備えの大切を学び、訓練を通して課題等を検証するため10月全世帯を対象に防災訓練を行いました。この訓練を平素の生活に生かしましょう。

## 都市住民との交流、農業体験

### ①柿もぎ体験と吊るし柿の作り方

小河内地区は毎年クマよけ対策として、都市住民の協力を得て柿もぎ体験と吊るし柿の作り方の講習会を行っており今年も好天に恵まれた10月25日(土)行い、都市住民の親子ら22組59人が参加した。参加者は現地で柿もぎの体験や吊るし柿の作り方を習い、地元民による熊の話も熱心に耳を傾けていた。尚、もいだ柿は自分で作った吊るし柿1連と共にお土産として13kg持ち帰った。



鈴生りの柿を棹でもぐ親子の参加者



吊るし柿づくり



増野岩登氏の熊の話

## ② ハウス・白島商店会稲刈りとさつま芋ほり体験

9月21日、ハウス「食と農と環境体験教室」が春に田植えやさつま芋植えしたお米やさつま芋の収穫をした。又23日には交流中の白島商店会会員らも同様の体験をした。



稲刈り体験をするハウス親子の参加者



さつま芋ほりを体験する白島商店会の参加者

## 小河内情報

### ① 小河内小学校最後の運動会

児童数の減少（現在6人）により市立小河内小学校は平成27年3月末で閉校、27年度より飯室小学校へ統合されることになった今年最後の運動会が、卒業生や住民約200人が参加して賑やかに行われました。



最後は参加者全員で記念撮影、「小河内、だいすき、ありがとう」



心を合わせてムカデ競争、1. 2, 3・・・



パン食い競争 中々旨く行かない

## ②小河内小学校最後の学芸会

11月8日、小河内小学校最後の小河内っ子祭り（取り入れ祭り、学芸会）が行われ、食事を戴いた後、児童が演じる学芸会に参加した約100人の住民から大きな拍車が送られた。



6人全員による吹き囃子（市重要無形文化財）



6人全員が合掌



参加者は学校手作りの中食

### ③田舎芝居「昭和劇団」

11月1日（土）小河内集会所で「昭和劇団」による田舎芝居が行われ、地区内外から多くの見物者で賑わった。

#### [昭和劇団]

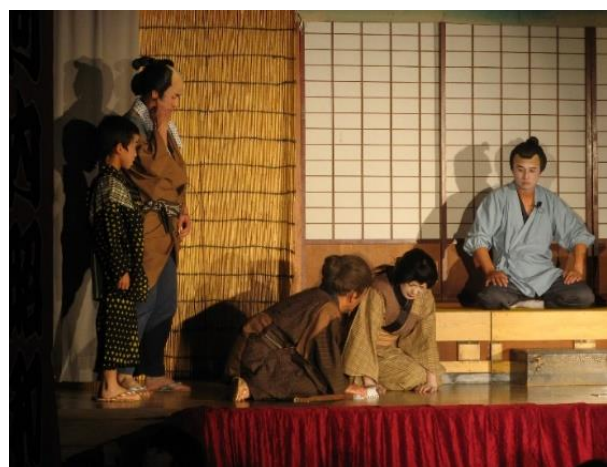
昭和3年、村の青年が自分達で村に娯楽を、と始めたのが起源と言われる。昭和47年小河内川の水害により芝居衣装など流失、一時中断したがその後復活、現在は2世、3世が引き継いでいる。素人が演じる手作りの芝居は観客と一体感があり熱烈なファンが多い。



清水団長と山縣座長の挨拶（11月1日、小河内集会所で）



真剣？勝負 プロ顔負けの演技



涙を誘う牛頭山情話

## ④養山八幡神社秋季大祭吹き囃子行事

11月2日（日）小河内養山八幡神社秋季大祭が行われ、200年余続く広島市重要無形文化財指定の吹き囃子行事が大勢の参拝者、見物客に披露された。

### [吹き囃子行事]

養山八幡神社秋季大祭吹き囃子行事は1811年（江戸時代後期）、村人が神様を笛や太鼓でお迎えしたのが起源と言われ、200年余の伝統を誇る小河内最大の行事。平成9年、広島市重要無形文化財に指定。笛や太鼓、鐘の音に合わせ、伝統衣装をまとった稚児が太鼓を打ちます。以前は11月29日行われていたが、近年11月第一日曜日に変更された。



吹き囃子行事の一コマ（11月2日、養山八幡神社）



神輿



鬼に頭を噛んでもらうと、頭が良くなるという

## ⑤慶賀

今秋、小河内地区から下記1団体と1名が表彰及び褒章を受章されました。  
おめでとうございます。

### 1、文部科学大臣表彰

受賞者：小河内学区体育協会（会長 前寺哲信）

名 称：平成26年度生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体表彰

受賞日：平成26年10月13日

### 2、秋の褒章

受賞者：橋本忠教氏（障害者支援施設「太田川学園」統括園長）

名 称：藍綬褒章（公共の利益に貢献）

発表日：平成26年11月3日

## ⑥RCCテレビ取材、アンガールズ来る

RCCテレビの人気番組「元就」収録のため、11月5日アンガールズの山根良顕、田中卓志コンビが小河内を訪れ、弥太郎君や吊るし柿、昭和劇壇、小河内小学校、水車の里、紙芝居などを取材した。又、8日には同局の記者が小河内小学校最後の学芸会を取材した。

放映は12月7日（日）、21日（日）何れも午後12時54分から1時間放映される予定。



吊るし柿（下三谷中川宅（左）と昭和劇団の原本氏（右）と剣の立ち合いをするアンガールズの田中氏



小河内小学校で児童、先生と一緒に山根氏

## ⑦小河内小学校閉校後の跡地・施設の活用について

明治7年開校された小河内小学校は児童数の減少（現在6名、来年度は4名の予定）から子供の教育環境などの観点から今年度末をもって140年の幕を下ろし、飯室小学校に統合されることになりました。地区に小学校が無くなることは、過疎化に一層の拍車をかけることになり、小河内住民こぞって反対、署名簿を広島市に提出しましたが、教育環境や子供の将来を考え苦渋の選択をせざるをえませんでした。事態を冷静に、閉校を前向きに捉え、この機会に跡地・施設を核として小河内を創生することとし、アンケートを通じて住民の声を聴きながら、又住民代表や各種団体代表者で構成する検討委員会と広島市教育委員会と度重なる会議等で広島市教育委員会のご尽力で校舎の一部を広島市立大学芸術学部が創作活動などの使用が決まりこれに合わせ地元もレストランや学校の資料室、交流の場等に活用、市大との相乗効果で活性化を図る方向で、現在市教委や市立大で詳細プランで予算化に向けて努力して頂いています。

### 小河内の今後の行事等

今年度内主要行事（※印は予定）

日時	行事	主催	場所
1月30日（日）	安佐北区安心・安全大会	安佐北区役所他	安佐北区民文化センター
1月24日（日）※	小河内地域おこし懇談会	小河内自治会連合会	小河内小学校
1月18日（金）	小河内小学校しめ縄づくり	小河内小学校	小河内小学校
1月20日（土）	門松づくり	Oプロ	小河内集会所
1月23日（火）	小河内集会所清掃	小河内各種団体	小河内集会所
1月11日（日）※	とんど	小河内コミ協他	小河内下楓原水田
2月14日（土）※	炭焼き体験とBBQ	Oプロ	桜窯
3月7日（土）※	滝山登山と交流会	Oプロ	黒瀬
3月20日（金）	小河内小学校卒業式	小河内小学校	小河内小学校
3月22日（日）	小河内小学校閉校式	小河内小学校他	小河内小学校

### 編集後記

人口500人にも満たない小河内地区、若者は都会へ出て行き、残るのは高齢者が大半、人は減り、小学校までが閉校になり、過疎化が進むばかり、一体この先小河内はどうなるんだろう？ 少子・高齢化、人口減少、こうして過疎という時代の大きな波は容赦なく押し寄せてくる。この負の連鎖を断ち切り、元気な小河内を再生しよう、とNPO法人小河内Oプロジェクトが誕生、3年余り活動、小河内は変わった、との声もあるが、目に見える成果はない。先般の住民アンケートで小学生から80代まで多くの意見、アイデアが寄せられた。押しつけではなく、「住民の住民による住民のため」のまちづくりが地方自治の原則。地方創生担当大臣を任命、国も地方を応援する。自信を持って自分たちの住む小河内を子や孫にどう繋ぐか、12月開催予定の懇談会では真剣に、建設的な議論をしましょう。地区外会員の方や行政もご支援をお願いします。（S）